

1. 研究テーマ

主体的に自分の考えや思いを伝え、
楽しくコミュニケーションを図ろうとする児童の育成

2. 研究の実際

(1) 研究の視点

研究テーマに掲げる子どもの姿を実現するための授業づくりの視点を設定し、授業実践を行うこととした。

視点①コミュニケーションへの興味・関心や意欲を高める単元の学習課題の設定

視点②外国語に十分慣れ親しんだり、知識・技能を定着させたりする活動の充実

※「音声から文字へ」を意識

視点③言語活動の充実

(2) 研究の概要

① 授業づくり研修（期日：令和5年8月8日 場所：小坂小学校）

夏季休業中の期間に、小中合同での外国語の授業づくり研修を行うことを計画した。研修の中では、義務教育課英語教育推進室の太田指導主事から講話をいただいた後に、中学校区単位で情報共有を行った。コロナ禍では開催できなかったが、昨年度からまた小中合同の研修が開催でき、小学校と中学校それぞれが、互いの英語授業や取組について理解を深める良い機会となった。

② 外国語活動の授業実践（期日：令和5年9月25日 場所：矢部小学校）

4学年「What do you want?」の授業実践を行った。本単元では、単元のゴールとなる言語活動として「友達を喜ばせるパフェを作ろう」を設定した。相手に伝わるように工夫しながら、欲しい食材を尋ねたり、自分が欲しい食材を伝えたりするやり取りをしながら、学習課題の解決に向けて、歌やチャンツなどを音声で十分に慣れ親しみ、「What do you want? I want～」という表現を使ったやり取りを友達と繰り返しながら、最後のオリジナルパフェを作り合う活動につなげた。

本時では、これまで慣れ親しんできた表現を用いながら、友達が喜ぶおもてなしパフェを作り合うために英語でやり取りする活動を行った。パフェづくりには、タブレットを用いるなど、効果的なICTの活用もされていた。また、慣れ親しんだ表現でやり取りするだけでなく、より分かりやすく伝えるために、既習事項を加えて話したり反応したりして、自分なりに工夫しながら伝え合う児童の姿が見られた。授業研究会では、成果と課題を出し合い、改善策までを話し合うことができ、学びの多い研修になった。

③ 外国科の授業実践（期日：令和6年1月26日 場所：嘉島西小学校）

第6学年「My Best Memory」の授業実践を行った。授業では、「小学校生活で一番の思い出をスピーチしよう」という単元のゴールに向かって、児童が意欲的に発表し合う姿が見られた。「音声から文字へ」ということや既習事項の活用を強く意識して授業が進められており、本研究テーマに迫る学びの多い研修になった。

3. 成果○と課題▲

- 授業づくりの視点を明確にしたことで、授業実践の際に、それらを意識した指導の工夫がなされるようになった。また、事前研にも多くの先生方の参加があり、充実した事前研となった。
- 組織づくりを工夫したことで、過度の負担なく部会員が協力し合って研修会を運営することができた。
- 授業実践では、単元のゴールとなる言語活動の設定や単元デザイン等にたくさんの工夫がなされており、部会員に多くの学びがあった。特に、今年度は、以前から課題だった「音声から文字へ」も非常に意識されており、教師の意識の変容は、上益城の英語教育の向上につながった。
- ▲ 夏季研修を、中学校と合同でできたことは良かったが、地域間や小学校中学校間でも外国語科の授業づくりについては、様々な実態や教師の意識の差があることが明らかとなった。外国語の授業づくりについて学び、さらに理解を深めるためにも、夏季研修の内容をさらに工夫していく必要がある。